

◆ 立川都税事務所長賞 ◆

「エコな社会と税金」

小金井市立南中学校 3年 渡邊 千羽奈

日本はエアコンを中心とした、暖房、冷房機器に頼りすぎではないだろうか。二〇二一年の電気事業で払っている電気料金は、八千七百七十三億円らしい。この数字に私は驚きが隠せなかった。さらに、そこには税金が含まれていた。この税金を私たちはあたりまえのように毎年払っている訳だが、少しでも抑えたいと思う。

今の日本は、気温上昇が激しくなるにつれ、エアコンなどの家電の使用料も増えている。つまり、その消費されていく電力を補うため国や政府、私たちはお金を納めなくてはいけない。国をより良くするための税金を、終わりのない電力供給に当て続けるのはどうなのか。電気の使用を抑えた「エコ」な生活を推進するべきだ。

私はエアコンを題材として、何か対策は行えないのか調べてみた。母が貸してくれた「地球の冷やし方」という本で、家の造りについて書かれたページを見つけた。そこには「夏涼しく、冬暖かい」をテーマに非電化の様々なアイデアが載っている。その中でも「ウズベキスタン流」の家の造りが興味深いと感じた。家は一つ、という考えをひっくり返し、家を二つに分けそれぞれを夏用、冬用にする。夏用は床下に通気口、天井を高くし、風通しのよい造り。冬用は床に断熱材を入れ、熱を逃がしにくくする。どちらもエアコンを使わずに済むよう、工夫が施されている。また、私は職場体験で教わった「WB工法」もエコなのではないかと思った。これは通気口が用いられ、一つの家で夏と冬を快適に過ごせる。家を買うとなった時、必ずしもエアコンは必要になる訳ではないのだ。

今の日本は、電力に依存している。電気は、多くの場面でこれからも必要になってくるだろう。しかし、使い続けていくことは環境問題、経済にも影響を与える。一人一人が、便利ばかりを求めないで、工夫できる事を積極的に取り入れるべきだ。

私たちが作り出してしまった、今の現状。より良い税金の使い道について見直していきたいと思った。今電気で使われている税金を、他の事に向けられないだろうか。それを実現できれば、無駄のないエコな社会に近づくと思う。これは、私たち一人一人の意識や考え方で変える事が出来るのだ。